

平成 27 年度 全国学力・学習状況調査結果の報告

【香美町の結果概要の公表と対策】

1. 調査結果の報告

平成 27 年 4 月 21 日（火）に、香美町の全ての小学校（10 校）の 6 年生、中学校（4 校）の 3 年生を対象に、国語・算数（数学）の学力を調べるとともに、質問紙による学習状況調査を行いました。

そこで、あくまでも学力の特定の一部ではありますが、調査結果を分析したことから分かる状況や課題点及び、今後の対策等を付け加え、結果の公表といたします。

2. 小・中学校の学力調査結果の概要

【調査結果の分析の基準】	
全国平均正答率を 100 とした時の割合	学力調査
	本町（昨年度）及び全国と比較した時の表現
+5.1%以上	上回る
±5.0%以内	同程度
-5.1%以下	下回る

（1）小学校の現状

教 科	領 域	香美町の結果
国 語	A（知識）	同 程 度
	B（活用）	下 回 る
算 数	A（知識）	下 回 る
	B（活用）	下 回 る
理 科	知識・活用	下 回 る

香美町全体の学力の状況は、全国の本年度の平均正答率と比べると、国語Aは同程度、国語Bは「下回る」状況であった。また、算数A、算数Bも「下回る」状況であり、理科においても、「下回る」状況であった。

なお、本町の昨年度の平均正答率と比較してみると、国語A、国語Bは「同程度」、算数A、算数Bは、ともに「下回る」状況であった。

(2) 中学校の現状

教科	領域	香美町の結果
国語	A (知識)	同程度
	B (活用)	上回る
数学	A (知識)	同程度
	B (活用)	上回る
理科	知識・活用	上回る

香美町全体の学力の状況は、全国の本年度の平均正答率と比べると、国語Aは同程度、国語Bは「上回る」状況であった。また、数学Aは同程度、数学Bは「上回る」状況であり、理科においても、「上回る」状況であった。

また、本町の昨年度の平均正答率と比較してみると、国語Aは同程度、国語Bは「上回る」状況であり、数学Aは同程度、数学Bは「下回る」状況であった。

3. 学力調査結果の傾向と課題

(1) 小学校

国語A (知識)	全体的な傾向	<p>全国と比べると「同程度」の結果であり、本町の昨年度と比較すると「下回る」状況であった。学習指導要領の全領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」）の傾向を見ると、全国では、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」の領域の中に課題がある。</p> <p>本町でも、全国と同様に、それぞれ下記のような課題点が見られた。</p>
	具体的な課題点	<p>①「話すこと・聞くこと」・・・相手の話の目的や意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる。</p> <p>②「読むこと」・・・新聞のコラムを読んで、引用の仕方について理解する。</p>
国語B (活用)	全体的な傾向	<p>全国と比べると「下回る」結果であり、本町の昨年度と比較すると「上回る」状況であった。「書くこと」「読むこと」の領域の問題が出題されたが、全国では、それぞれ「書くこと」「読むこと」の領域の中に課題がある。</p> <p>本町でも、全国と同様に、それぞれ下記のような課題点が見られた。</p>
	具体的な課題点	<p>①「書くこと」・・・取材した内容を整理して、新聞記事を書く。</p> <p>②「読むこと」・・・目的に応じ、文章と図とを関連付けて読む。</p> <p>・・・想像した自分の思いや考えが伝わるように音読する。</p>

算数 A (知識)	全体的な傾向	<p>全国と比べると「下回る」結果であり、本町の昨年度と比較しても「下回る」状況であった。学習指導要領の全領域（「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」）の傾向を見ると、全国では、「量と測定」や「図形」の領域の中に課題がある。</p> <p>本町では、全国の課題と共に、「数と計算」においても、下記のような課題点が見られた。</p>
	具体的な課題点	<p>①「数と計算」・・・小数点をそろえて位ごとに計算する。</p> <p>②「量と測定」・・・分度器を用いて 180° より大きい角度を求める。</p> <p>③「図形」・・・示された三角形が二等辺三角形になる根拠を円の性質と関連付けて判断する。</p>
算数 B (活用)	全体的な傾向	<p>全国と比べると「下回る」結果であり、本町の昨年度と比較しても「下回る」状況であった。全領域の問題が出題されたが、全国では、「数と計算」「図形」「数量関係」の領域の中に課題がある。</p> <p>本町でも、全国と同様に、それぞれ下記のような課題点が見られた。</p>
	具体的な課題点	<p>①「数と計算」・・・およその大きさを捉え、根拠をもって判断し説明する。</p> <p>②「図形」・・・図形の性質を利用して日常生活の事象を解決する。</p> <p>③「数量関係」・・・日常生活に見られる増量の場面を図に表す。</p>

理科 (知識・活用)	全体的な傾向	<p>全国と比べると「下回る」結果であり、主として「知識」に関する問題は「同程度」、主として「活用」に関する問題は、「下回る」状況であった。</p> <p>一方、学習指導領域の全領域（「物質」「エネルギー」「生命」「地球」）の傾向を見ると、全国では、「物質」と「地球」の領域の中に課題がある。</p> <p>本町でも、全国と同様に、それぞれ下記のような課題点が見られた。</p>
	具体的な課題点	<p>①「物質」・・・結果を見通しながら実験方法を考える。（水の温まり方） ・・・実験結果をグラフにして分析することができる。（ミョウバンの溶け方）</p> <p>②「地球」・・・方位磁針を用いた方位の調べ方を身に付け、適切な観測ができる。</p> <p>③「生物」・・・対象や目的に応じて観察器具を適切に操作することができる。</p>

(2) 中学校

国語A (知識)	全体的な傾向	<p>全国と比べると「同程度」の結果であり、本町の昨年度と比較しても「同程度」の状況であった。学習指導要領の全領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」）の傾向を見ると、全国では、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域の中に課題がある。</p> <p>本町でも、全国と同様に、それぞれ下記のような課題点が見られた。</p>
	具体的な課題点	<p>①「書くこと」…事実や意見が相手に効果的に伝わるように工夫して書く。</p> <p>②「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」…キャプション案づくりを通して、単語の類別を理解する。</p>
国語B (活用)	全体的な傾向	<p>全国と比べると「上回る」結果であり、本町の昨年度と比較しても「上回る」状況であった。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域の問題が出題されたが、全国では、それぞれ「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の領域の中に課題がある。</p> <p>本町では、全国と比べると上回る状態ではあるが、部分的には全国と同様に、それぞれ下記のような課題点が見られた。</p>
	具体的な課題点	<p>①「書くこと」…根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く。</p> <p>②「書くこと」「読むこと」…複数の資料から情報を得て、自分の考えを具体的に書く。</p>

数学A (知識)	全体的な傾向	<p>全国と比べると「同程度」の結果であり、本町の昨年度と比較しても「同程度」の状況であった。学習指導要領の全領域（「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」）の傾向を見ると、全国では、「数と式」「資料の活用」の領域の中に課題がある。</p> <p>本町でも、全国と同様に、それぞれ下記のような課題点が見られた。</p>
	具体的な課題点	<p>①「数と式」…数量の関係を文字式で表す。</p> <p>②「関数」…関数の関係を根拠として、事柄が成り立つ理由を説明する。</p> <p>③「資料の活用」…数学的表現を用いて判断の理由を説明する。</p>
数学B (活用)	全体的な傾向	<p>全国と比べると「上回る」結果であり、本町の昨年度と比較すると「下回る」状況であった。全領域の問題が出題されたが、「関数」「資料の活用」の領域において、全国では、それぞれ課題がある。</p> <p>一方、本町は、「数と式」や「図形」では、全国と比べて高い状況も見られたが、「関数」「資料の活用」の領域は、全国と同程度であり、全国と同様に、それぞれ下記のような課題点が見られた。</p>
	具体的な課題点	<p>①「図形」…平面図形と空間図形を関連付けて考察する。図形の性質を用いて問題解決の方法を数学的に説明する。</p> <p>②「関数」…関数の関係を根拠として、事柄が成り立つ理由を説明する。</p> <p>③「資料の活用」…数学的表現を用いて判断の理由を説明する。</p>

理科 (知識・活用)	全体的な 傾向	<p><u>全国と比べると「上回る」結果であり、主として「知識」に関する問題や主として「活用」に関する問題は、どちらも全国より「上回る」状況であった。</u>また、学習指導領域の全領域（「物理」「化学」「生物」「地学」）の傾向を見ると、全国では、「物理」「化学」「生物」の領域の中に課題がある。</p> <p>一方、本町では、それらの領域は全国より「上回り」、「地学」は、全国と「同程度」の結果であった。しかし、本町でも、全国と同様に、それぞれの領域において下記のような課題点も見られた。</p>
	具体的な 課題点	<p>①「地学」・・・実験における装置や操作の意味を自然の事物・現象と対応して考える。</p> <p>②「物理」・・・複数の要因を検討し、実験の計画を立案して課題を解決する。</p> <p>③「生物」・・・見出した問題を基に適切な課題をつくり、仮説を設定する。</p>



4. 学習状況調査の結果(児童・生徒の質問紙から分かる現状)

【調査結果の分析の基準】	
全国平均を 100とした時の割合	学習状況調査
	全国と比べた時の表現
+10%以上	かなり高い
+5.1%以上 +10%未満	高い
±5.0%以内	同程度
-5.1%以下 -10%未満	低い
-10%以下	かなり低い

(1) 家庭での学習時間や学習内容について

学習時間の平日の全国平均は、児童・生徒ともに「1時間～2時間」である。学習時間の土・日の全国平均は、児童は「1時間より少ない時間」であり、生徒の場合は、「1時間～2時間」である。

本町の児童の学習時間を見ると、1時間以上学習する平日の割合(77%)や土・日の割合(71%)は、ともに全国と比べると「かなり高い」状況である。また、生徒の学習時間においても、1時間以上学習する平日の割合(70%)は、全国と比べると「同程度」、土・日の割合(79%)は、「かなり高い」状況であり、児童・生徒ともに学習時間は全国平均以上である。

一方、学習内容については、全国的に宿題か復習をやっている児童・生徒が多く、本町の児童・生徒も、全国と同様の状況である。

(2) 読書の時間(授業以外)について

平日に学校の授業以外に読書をする時間の中で最も多い時間は、児童・生徒ともに「10分～30分」である。

本町の児童・生徒の読書時間の状況を見ると、主体的に10分以上読書する児童の割合(68%)や生徒の割合(53%)は、ともに全国と比べると「同程度」の状況である。

また、町内においては、児童・生徒ともに、この3年間を比較すると年々少しずつ増加の傾向が見られるなど、町民運動の一つとして取組んでいる成果と思われる状況も現れている。

(3) 基本的な生活習慣について

児童・生徒の基本的な生活習慣（起床、朝食、就寝等）の状況の割合は、いずれも全国と比べると「同程度」の状況である。また、一部には朝食をあまりとっていない児童・生徒や全くとれていない児童がいる実態もある。

(4) メディアとの関係について

児童が、1日1時間以上のテレビの視聴する割合(86%)やテレビゲームをする割合(55%)、携帯電話やスマートフォンでインターネットやメール等をする割合(17%)は、いずれも全国と比べると「同程度」である。

また、生徒においては、1日1時間以上、テレビを視聴する割合(83%)は、全国と比べると「同程度」、テレビゲームをする割合(52%)は、「低い」状況であり、携帯電話・スマートフォンでインターネットやメール等をする割合(25%)は、「かなり低い」状況である。

また、本町の3年間を比較すると、児童・生徒ともに年々携帯電話やスマートフォンでインターネットやメール等をする割合は、全国の傾向と同様に増加の傾向である。

一方、一部には3時間以上もテレビの視聴やゲーム、インターネットやメール等を行っている児童・生徒も存在している状況もある。

(5) 社会に対する興味・関心について

「地域の行事へ参加する」児童の割合(91%)や生徒の割合(85%)は、全国と比べると「かなり高い」状況である。また、「出来事への関心をもつ」児童の割合(62%)は、全国と比べると「同程度」だが、「出来事への関心をもつ」生徒の割合(69%)は、「かなり高い」状況である。

また、週に新聞を「1回から3回以上」読んでいる児童の割合(35%)や生徒の割合(38%)は、全国と比べると「かなり高い」状況であり、本町のふるさと教育の成果の一つであるとも考えられる。

一方、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えられる」児童の割合(38%)や生徒の割合(33%)は、全国と比べると「同程度」であり、全国と同様に本町の課題でもある。

(6) 学校生活について

「学校へ行くことが楽しい」 児童の割合（83%）や生徒の割合（85%）は、ともに全国と比べると「同程度」の状況である。

しかし、一部の「楽しさ」を感じていない児童・生徒への配慮も必要である。

(7) 将来に関する意識について

「将来の夢や目標を持っている」 児童の割合（87%）や生徒の割合（68%）は、ともに全国と比べると「同程度」の状況である。

また、生徒の割合を、本町の昨年度と比較すると、やや増加しているが、さらに生徒への対応が課題である。

(8) 自尊意識について

「自分にはよいところがある」と感じている児童の割合（80%）は、全国と比べると「同程度」の状況である。また、「自分にはよいところがある」と感じている生徒の割合（77%）は、本町の昨年度と比較すると増加しており、全国と比べると「高い」状況である。

しかし、自尊意識を感じていない一部の児童・生徒への対応が課題である。

(9) 規範意識について

「学校のきまりを守る」（児童 90%・生徒 97%）、「人の気持ちがわかる人間になりたい」（児童 97%・生徒 94%）、「いじめはいけないことだ」（児童 97%・生徒 95%）、「役に立つ人間になりたい」（児童 95%・生徒 96%）などの割合は、児童・生徒ともに、全国と比べると「同程度」の状況である。



5. 今後の方策

今後、本町では、これらの学力調査結果や学習状況調査の結果を踏まえ、次のように、学校、家庭、地域が連携し合い、それぞれの場で、具体的な目標をもって取り組む。

《学校》

(1) 教科の基礎・基本の徹底を図る。

- ① 教科学習の時間を充実する。
- ② 朝学習などの特設タイムを充実する。
- ③ 様々な教育活動の場で、本の活用を推進する。
- ④ 教科学習に関連のある本の読書を推進する。
- ⑤ 家庭と連携して取り組む。

(2) 各教科の指導方法の工夫・改善を図る。

- ① 授業の冒頭に、「学習見通しを立てる活動」、最後に、「振り返る活動」を取り入れる。
- ② 「言語活動」の時間を取り入れた授業を推進する。
 - ・ 様々な考えや、思考を引き出す時間
 - ・ 発言したり、活動する時間
 - ・ 話し合い活動の時間
 - ・ 資料を使って発表する時間
 - ・ 調べた内容を文章に書く時間
- ③ 「認め、ほめる」指導法を取り入れる。
- ④ 「個に応じた指導」を取り入れる。
 - ・ 授業のユニバーサルデザイン化
- ⑤ 発展的な内容を学習する時間を設ける。

(3) 児童・生徒が主体となる「課題解決的な学習」方法を取り入れた授業を推進する。

本町の学力の課題を解決するためには、これまでの一斉授業を見直し、「課題解決的な学習」(注1)を通して、「確かな学力」(注2)を推進します。

《展開例》

- (1) 本時の課題(目標)をつかむ。
- (2) グループに分かれ、課題を解決する。
 - ① 課題に対する、自分の考えを述べる。
 - ② グループ内の解決案(考え)をまとめる。
 - ・ 司会者を決めて学習を進める
 - ・ 調べ活動等を行う
 - ・ 討議する
 - ・ まとめを記述したり、発表方法を考えたりする
- (3) 学級として、課題を解決する。
 - ① グループ毎に意見を発表する。
 - ・ 表を使う、比較する
 - ② 意見交換し、学級としての考えをまとめる。
- (4) 振り返りの活動を行い、本時をまとめる。
 - ① 本時のまとめを表現する。
 - ・ 発表する、記述する
 - ② 次回の課題をつかむ。

※(注1)「課題解決的な学習」：児童生徒自らが課題を発見し、主体的・協働的に学ぶ学習（アクティブ・ラーニング）の一つであり、主体性や自ら課題を解決する力、思考力、判断力、表現力などを育てる学習

※(注2)「確かな学力」：① 各教科の基礎的・基本的な能力
② 思考力、判断力、表現力、問題解決能力、課題発見能力
③ 学習意欲や主体的に学習に取り組む態度

(4)効果の上がる学習環境を整える

学力調査や学習状況調査の課題を解決するために、十分に全教職員が共通理解を図るとともに、効果の上がる学習環境づくりに取り組む。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 全教職員が共通理解を図る時間を確保する。② 模擬授業、外部講師を招聘した研修を充実する。③ 家庭学習のあり方の共通理解の場を設ける。<ul style="list-style-type: none">・宿題の内容（調べたり、文章を書いたりする宿題等）の確認・家庭学習時間の目安の設定・読書の時間の目安の設定④ 学校での読書の時間を設定する。（朝時間等）⑤ 将来の夢や目標を持たせる活動を展開する。⑥ 補充的な学習の時間について検討する。 |
|---|

《家庭との連携事項》

- (1) 家庭学習の習慣化
- (2) 読書の習慣化
- (3) 規律ある生活（早寝、早起き、朝ごはん等）の習慣化
- (4) 将来への夢づくり
- (5) 「認め、ほめる」指導法の共有化
- (6) メディアを使用する時のルール化
- (7) 家族内のコミュニケーション時間の設定

《地域との連携事項》

- (1) 地域の一員を自覚する行事づくり
- (2) 将来の夢を与える行事づくり